

国語 科目 古典探究

单位数： 2 单位

)

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 語・文・書・読			評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	「説話3」 「御伽草子・宇治拾遺物語」 説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容的確に捉える。積極的に説話を読み、内容について理解をふかめようとする。助動詞全般を理解し、調べ、説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に助動詞について文語の決まりへの理解を深める。 説話の内容理解を深め、その滑稽味や登場人物の機転について、自分なりに内容をまとめて書き、説明する。	○	○		「読むこと」において、文語文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	14
	定期考査			○			○	○		1
	「物語2」 「源氏物語・大鏡」 物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容的確に捉える。積極的に物語を読み、内容について理解をふかめようとする。和歌の決まりや表現を調べ説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に和歌について文語の決まりへの理解を深める。 物語の内容理解を深め、登場人物の心情の動きについて、自分なりに内容をまとめて書き、説明する。		○		「読むこと」において、文語文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	14
	定期考査				○		○	○		1
2 学 期	「日記」 「蜻蛉日記・更級物語」 日記という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容的確に捉える。積極的に日記を読み、内容について理解をふかめようとする。作者の心情やそれを的確に伝える表現を調べ説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に助詞について文語の決まりへの理解を深める。 日記の内容理解を深め、登場人物の心情の動きについて、自分なりに内容をまとめて書き、説明する。	○			「読むこと」において、文語文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	14
	定期考査				○		○	○		1
	「物語3」 「平家物語」 物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容的確に捉える。積極的に物語を読み、内容について理解をふかめようとする。軍記物語独特の表現を調べ説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に軍記物語独特の文語の決まりへの理解を深める。 物語の内容理解を深め、登場人物の心情の動きについて、自分なりに内容をまとめて書き、説明する。		○		「読むこと」において、文語文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	14
	定期考査				○		○	○		1
3 学 期	「項羽と劉邦」 「鴻門の会」 歴史書（史記）という文章の種類構成や展開を的確に捉える。積極的に漢文を読み、内容について理解をふかめようとする。漢王朝の成立の歴史を進んで調べ、その内容を説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に句形や訓詁の決まりへの理解を深める。歴史記述の内容理解を深め、ものの見方や考え方を的確に捉える。漢王朝の成立について調べ、内容をまとめて書き、説明する。		○		「読むこと」において、文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	5
	「項羽と劉邦」 「四面楚歌」 史伝という文章の種類構成や展開を的確に捉える。積極的に漢文を読み、内容について理解をふかめようとする。時代背景や歴史上の人物の言動を進んで調査し、その内容を説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に句形や訓詁の決まりへの理解を深める。史伝の内容理解を深め、ものの見方や考え方を的確に捉える。中国文化の影響について調べ、内容をまとめて書き、説明する。		○		「読むこと」において、文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基的に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	5
	定期考査				○		○	○		70

三宅 高等学校 令和7年度(3学年用)教科 国語 科目 論理国語演習

教 科 : 国語 科 目 : 論理国語演習 単位数 : 2 単位

対象学年組: 第 3 学年 選択 組 ~ 組

教科担当者: (選択組: 廣見) (組:) (組:) (組:) (組:) (組:)

使用教科書: (論理国語 (大修館) (副教材)LT現代文3 (浜島書店)読み解くための現代文単語 (文英堂))

教科 国語 の目標:

【知 識 及 び 技 能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合
を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言
の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わるうとする態度を養う。

科目 論理国語演習		の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、ことばに対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の国語の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

[illegible]

[illegible]

高等学校 令和7年度（3学年用）教科		国語	科目	国語表現演習
教科：国語	科目：国語表現演習	単位数：2	単位	
対象学年組：第3学年	組～組			
教科担当者：（N組：坂田）（F組：坂田）	（組：）	（組：）	（組：）	（組：）
使用教科書：（国語表現（大修館））				
教科 国語	の目標：			

教科	国語	の目標：
【知 識 及 び 技 能】	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	
【思考力、判断力、表現力等】	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
【学びに向かう力、人間性等】	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わりうとする態度を養う。	

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、活用できるようになる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。	言葉がもつ価値への認識を深め、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や釈迦に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
			経・関	書	読						
1 学 期	伝える力を向上させる 1	適切な文章表現や語句の使い方、話し言葉と書き言葉の違いに注目し、自身の考えを適切に書いて表現できるようになる。	○			ワークシート、提出物		○	○	○	7
	伝える力を向上させる 2	適切な文章表現や語句の使い方、話し言葉と書き言葉の違いに注目し、自身の考えを適切に書いて表現できるようになる。		○				○	○	○	8
	小論文を書く	前の単元を踏まえ、資料等を活用しながら、自身の考えを筋道立てて論理的に表現できるようになる。		○		ワークシート、提出物		○	○	○	15
2 学 期	情報の収集と活用	自身の課題に対して、適切なメディアを選択し、複数の情報を比較しながら情報収集をすることができるようになる。		○		ワークシート、提出物		○	○	○	5
	プレゼンテーション①	聞き手を意識した話し方、プレゼンテーションの基礎について、実践的に学ぶ。	○			ワークシート、提出物		○	○	○	5
	プレゼンテーション②	自身の設定した主題に対して、聞き手にわかりやすく伝わることを意識してプレゼンテーションを行うことができるようになる。	○			ワークシート、提出物、プレゼンテーション		○	○	○	10
	プレゼンテーション③	感想や反省を生かしてプレゼンテーションを再構成することができるようになる。	○			ワークシート、提出物、プレゼンテーション		○	○	○	10
	社会に出て求められる表現力について学ぶ	手紙やメールの書き方、電話のかけ方、メモの取り方などについて学び、実践できるようになる。	○	○		ワークシート、提出物		○	○	○	5
3 学 期	様々な表現方法を知る	依頼や謝罪、アサーションなど、人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学び、実践できるようになる。	○			ワークシート、提出物		○	○	○	5
											合計
											70

年間授業計画

三宅 高等学校 令和7年度（3学年用）教科 国語 科目 論理国語

教 科： 国語 科 目： 論理国語 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 N 組～ F 組

教科担当者：（N・K組：坂田）（F組：坂田）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（ 論理国語（大修館） ）

教科 国語 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、ことばに対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の国語の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 読・加 書・読			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
	評論の基本的な読み方を復習する	オブジェとイメージ／人間の領域				【知識・技能】 対比などの文章構造を理解できている。 論理展開が明快な文章を読むことができる。 【思考・判断・表現】 筆者の主張をもとに、自分の考えを深め、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 本文の内容について話し合い、話し合った内容を自分の言葉でまとめようとしている。	○	○	○	9
	評論読解Ⅰ	評論解析				【知識・技能】 評論の基本的な読み方を理解できている。 【思考力・判断力・表現力】 内容や構成を的確に捉え、自分の考えを深めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数の文章を比較し、自分の考えをまとめることができる。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1
	評論読解Ⅱ	市民社会化する家族／身体と出現				【知識・技能】 文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解することができる。 【思考・判断・表現】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論旨を把握することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 本文の内容を踏まえて、筆者の主張についての自分の考えをまとめることができる。	○	○	○	9
1 学 期	様々な文章を書く	知的創造のために／「書く」ことへの挑戦			○	【知識・技能】 情報収集の方法や注意事項について理解している。 【思考力・判断力・表現力】 様々な観点から情報を収集しようとしている。また収集した情報をもとに、自分の立場や論点を明確にして文章を書くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報を収集し、新たな問いを設定して文章を書くことができる。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1

2 学 期	言葉について考える	言葉の〈意味〉と〈表象〉／霧の風景				○	【知識・技能】 二項対立に注目した評論の読み方を理解している。 【思考力・判断力・表現力】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論旨を把握することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 本文の内容を踏まえて話し合い、筆者の主張についての自分の考えをまとめることができている。	○	○	○	9
	評論読解Ⅲ	「貫之は下手な歌よみ」か？				○	【知識・技能】 二項対立に注目した評論の読み方を理解している。 【思考力・判断力・表現力】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論旨を把握することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 本文の内容を適切に捉え、本文中の例について調べ、発表できている。	○	○	○	5
	定期考査							○	○		1
	評論読解Ⅳ	ファンタジー・ワールドの誕生／日本文化私観				○	【知識・技能】 文章の組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思考力・判断力・表現力】 複数の文章を比較し、関連付けて文章を読解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 本文の内容について話し合い、適切な具体例を挙げて論じることができている。	○	○	○	9
3 学 期	現代社会を読む	ポストモダンと排除社会				○	【知識・技能】 文章の組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思考力・判断力・表現力】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論旨を把握することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 作品に興味をもち、論理の展開や作者の主張を読み取ったうえで、自分の主張を適切に書くことができている。	○	○	○	5
	定期考査							○	○		1
	評論読解Ⅴ	地図の想像力／真理の探究と民主主義				○	【知識・技能】 文章の組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思考力・判断力・表現力】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論旨を把握することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 筆者の主張を踏まえて、現代社会について考察し、発表することができている。	○	○	○	9
	定期考査							○	○		1
											合計
											70

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用）教科		地理歴史	科目	日本史探究基礎演習
教科： 地理歴史	科目： 日本史探究基礎演習	単位数：	4	単位
対象学年組：第 3 学年 F 組～ N 組				
教科担当者：（F組： 土田 ）（N組： 土田 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）				
使用教科書：（ 日本史探究 詳説日本史（山川出版社） ）				
教科 地理歴史	の目標：			
【知識及び技能】	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。			
【思考力、判断力、表現力等】	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したり、それらを基に議論したりする力を養う。			
【学びに向かう力、人間性等】	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
科目 日本史探究基礎演習	の目標：			

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 国家と文化の形成 古代国家の確立 【知識及び技能】 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立に至る時期の日本列島の環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解させる。また、古代の家や社会の展開について、理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 原始社会の特色や古代の国家や社会の関わりについて多面的・多角的に考察し、時代を通観する関いを表現している。古代の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性など多面的・多角的に考察し、歴史に関する諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら関いを設定し、教科書や図表などの資料を活用して、背景と影響、義、類似性、見通し、自己との関わりなどを調べて、解決させる。	・指導項目 列島にくらしはじめた人々 農耕がうまれる クニがうまれる ヤマト政権の形成 倭の五王と氏姓制度 飛鳥の朝廷 大化改新から壬申の乱、律令国家の形成 東アジアのなかの天平文化 奈良時代の政治と社会 平安時代初期の政治と文化 摂関政治と国風文化 摂関期の社会と経済 ・教材 教科書 ワークシート その他 ・ICT機器やタブレット端末の活用	【知識・技能】 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解している。国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解している。 【思考・判断・表現】 原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する関いを表現している。中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性など多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 原始社会の特色や古代国家や社会との関わりについての理解や考察などを踏まえ、資料を扱う技能を活用し、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を交えて、相互に表現する。	○	○	○	26
	B 単元 中世社会の成立 中世社会の展開 【知識及び技能】 中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・古代から中世への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し、探究に向けた時代を通観する関いを表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら関いを設定し、教科書や図表などの資料を活用して、背景と影響、意義、類似性、見通し、自己との関わりなどを調べて、解決させる。	・指導項目 院政と中世荘園 奥州藤原氏と平氏 治承・寿永の乱と鎌倉幕府 承久の乱と公武関係 地頭・御家人と荘園制の変質 鎌倉時代の経済・産業と自然環境 モンゴル襲来と日宋・日元交流 社会の変動と鎌倉幕府の滅亡 南北朝の内乱 足利義満と室町幕府 東アジアの海をゆきかど人々 惣村と一揆 室町・戦国時代の流通経済 戦国時代の政治と社会 ・教材 教科書 ワークシート その他 ・ICT機器やタブレット端末の活用	【知識・技能】 ・貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などをととも、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 ・古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する関いを表現している。中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・中世の特色についての考察などを踏まえ、武士の政治への関与が社会にもたらした変化や南北朝の争乱が室町幕府にもたらした変容など、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現する。	○	○	○	25
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	C 単元 統一政権の成立 幕藩体制の展開 【知識及び技能】 中世から近世への時代の転換を理解させる。幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現させる。近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関する諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら関いを設定し、教科書や図表などの資料を活用して、背景と影響、意義、類似性、見通し、自己との関わりなどを調べて解決させる。	・指導項目 南蛮との出逢い 織豊政権の全国統一 東アジアの変動と豊臣政権 江戸幕府の支配のしくみ 江戸時代の対外関係 身分制と村・町的生活 幕府政治の転換 産業の発展 交通網の発達と都市に繁栄 徳川吉宗・田沼意次と財政問題 商品経済の発達と民衆運動 寛政の改革と欧米 諸国の日本接近 江戸時代後期の学問・文化 天保の改革 ・教材 教科書 ワークシート その他 ・ICT機器やタブレット端末の活用	【知識・技能】 中世から近世への時代の転換を理解している。幕藩体制の確立、産業の発達、近世の社会と文化の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関する諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 近世の特色についての考察などを踏まえ、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し、それらの疑問を基に、教師が問いかけを行うなどして、近世の特色について課題意識をもてる。それらを踏まえて、生徒が、近世の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く関いを表現できるよう学習を深めている。	○	○	○	36
	D 単元 大日本帝国の展開 大日本帝国とモクラシ 【知識及び技能】 近世から近代への時代の転換を理解させる。日清・日露戦争、第一次世界大戦の影響、その後の国際秩序について確認させる。 【思考力、判断力、表現力等】 近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現させる。時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する関いを表現させる。近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関する諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現させる。近現代がどのような時代であったかを構造的にとらさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら関いを設定し、教科書や図表などの資料を活用して、背景と影響、意義、類似性、見通し、自己との関わりなどを調べて、解決させる。	・指導項目 開国 倒幕とええじゃないか 明治維新 文明開化 富国強兵 国策の画定 自由民権運動 大日本帝国憲法 日清戦争 1900年前後の世界と東アジア 日露戦争 社会問題と地域社会 対象デモクラシー 第一次世界大戦と日本 資本主義の成長 改造の時代 植民地 ・教材 教科書 ワークシート その他 ・ICT機器やタブレット端末の活用	【知識・技能】 立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。【思考・判断・表現】 近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関する諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 近代の特色についての考察などを踏まえ、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し、それらの疑問を基に、教師が問いかけを行うなどして、近代の特色について課題意識をもてる。それらを踏まえて、生徒が、近代の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く関いを表現できるよう学習を深めている。	○	○	○	30
	定期考査			○	○	○	1

3 学 期	E 単元 アジアの戦争と第二次世界大戦 現代日本社会形成と展開【知識及び技能】近代から現代に至る国家や社会の展開について、とくにアジア太平洋戦争へ至る過程と大戦中の政治、社会、国民生活の変容を理解させる。占領から国際社会への復帰、日本国憲法の成立、高度経済成長について、世界の中の日本の視点から理解させる。【思考・判断力、表現力等】近代化がどのような時代であったか、また、現代日本の課題はどのようなものか、時代の転換に着目して、多面的・多角的に考察し、時代を認識する問いを表現させる。【学びに向かう力、人間性等】自ら問いを設定し、教科書や図表などの史料を活用して、背景や影響、意義、類似性、見通し、自己との関わりなどを調べて、解決させる。	・指導項目 普通選挙と治安維持法 大日本帝国の選 択 満洲事変とモタニズム 日中戦争と総力戦 アジア太平洋戦争 敗戦 世界の中の日本 占領 占領改革と日本国憲法 朝鮮戦争 日米安保体制と55年体制 高度経済成長 ベトナム戦争とアジア 経済大躍進 世界の転換と日本社会 グローバル化する世界と日本 「わたしたち」の社会と世界	【知識・技能】軍部の台頭や対外政策、第二次世界大戦の展開と敗戦、占領政策と日本国憲法の成立、国際社会への復帰、高度経済成長などをもとに、大戦中の政治、社会、国民生活の変容や我が国の再出発と現代の政治の枠組み、国民生活の変容を理解している。	○ ○ ○	21
		・教材 教科書 ワークシート その他 ・ICT機器やタブレット端末の活用	【思考・判断・表現】第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の面筋などを根拠を示して表現している。【主体的に学習に取り組む態度】アジア太平洋戦争から現代の特色についての考察などを踏まえ、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し、それらの疑問を基に、教師が問いかけを行うなどして、アジア太平洋戦争から現代の特色についての課題意識をもてる。それらを踏まえ、生徒が、アジア太平洋戦争から現代の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現できるように学習を深めている。		合計 140

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅰ 演習

教 科： 数学 科 目： 数学Ⅰ 演習 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 F 組

教科担当者：（ F組： 斎藤 ）

使用教科書：（ 最新数学Ⅰ ）

教科 数学 の目標：

【知 識 及 び 技 能】基本的な公式、計算ができるようになる。

【思考力、判断力、表現力等】問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】多くの問題が解けるように努力したり、他者とどのように問題を解いたのか共有することができるようにする。

科目 数学Ⅰ 演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
受験に必要な数学の知識を身に着ける	入試で出題される融合問題などの応用問題を解ける	主体的に応用問題に取り組む姿勢を身に着ける

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 数と式 【知識及び技能】 数と式について理解し、問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	多項式、多項式の加法・減法・乗法、展開の公式、式の展開の工夫、因数分解、いろいろな因数分解、実数、根号を含む式の計算、不等式、不等式の性質、1次不等式の解き方、連立不等式、不等式の利用	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	5
	B 集合と命題 【知識及び技能】 集合と命題について理解し、問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	集合と部分集合、共通部分・和集合・補集合、命題と集合、命題と証明	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	C 二次関数 【知識及び技能】 二次関数について理解し、問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	関数、関数とグラフ、2次関数の最大・最小、2次関数の決定、連立不等式、2次関数のグラフと軸の共有点、2次不等式、2次不等式の利用	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	8
	D 図形と計量 【知識及び技能】 図形と計量について理解し、問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	鋭角の三角比、三角比の利用。、三角比の相互関係、三角比の拡張、三角比が与えられたときの角、正弦定理、余弦定理、三角形の面積	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
2 学 期	入試演習 【知識及び技能】 入試問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	入試問題	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	28
	定期考査			○	○		1
3 学 期	入試演習 【知識及び技能】 入試問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	入試問題	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
						合計	70

三宅高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅲ

教科 数学 科目 数学Ⅲ 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 F 組～ 組

教科担当者：（F組：鈴木） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ 数研出版 最新 数学Ⅲ ）

教科 数学 の目標：

【知 識 及 び 技 能】基本的な公式、計算ができるようになる。

【思考力、判断力、表現力等】問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】多くの問題が解けるように努力したり、他者とどのように問題を解いたのか共有することができるようになる。

科目 数学Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的な公式、計算ができるようになる。	問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。	多くの問題が解けるように努力したり、他者とどのように問題を解いたのか共有することができるようになる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	関数や極限について理解し、問題を解くことができる。	関数 ・分数関数 ・無理関数 ・逆関数と合成関数 極限 ・数列の極限	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	極限や導関数について理解し、問題を解くことができる。	極限 ・関数の極限 微分法とその応用 ・導関数	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	25
	定期考査			○	○		1
2 学 期	微分法や積分法について理解し、問題を解くことができる。	微分法 ・微分法の応用 積分法とその応用 ・不定積分 ・定積分	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
	積分法の応用問題を解くことができる。	積分法 ・積分法の応用	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	25
	定期考査			○	○		1
3 学 期	数学を用いた考察ができ、問題を解くことができる。	演習（1） ・総復習 ・入試過去問	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	20
	社会で用いられる数値や指標について理解し、問題を解くことができる。	演習（2） ・総復習 ・入試過去問	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
							合計 140

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学C

教科： 数学 科目： 数学C 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 F 組

教科担当者： （ F組： 斎藤 ）

使用教科書： （ 最新数学C ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 基本的な公式、計算ができるようになる。

【思考力、判断力、表現力等】 問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】 多くの問題が解けるように努力したり、他者とどのように問題を解いたのか共有することができるようにする。

科目 数学C の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトルや複素数の概念を理解し、問題を解くことができるようになる	身の回りにある曲線を活用してグラフや式に表し、それをさまざまな角度から考察することができる	複素数の演算をベクトルを用いて考え、他者に説明することができる

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	【知識・技能】 ベクトルの性質について理解し、問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	第1章 ベクトル 第1節 平面上のベクトル 1. ベクトル 2. ベクトルの和 3. ベクトルの差 4. ベクトルの実数倍 5. ベクトルの成分 6. ベクトルの成分と演算 7. ベクトルの内積 8. 内積の性質	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	5
	【知識及び技能】 平面上のベクトルについて理解し、問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	第1章 ベクトル 第2節 ベクトルと平面図形 1. 位置ベクトル 2. ベクトルと図形 3. ベクトル方程式 4. 円のベクトル方程式	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】 空間のベクトルについて理解し、問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	第1章 ベクトル 第3節 空間のベクトル 1. 空間の座標 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分と演算 4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル 6. 空間図形への応用 7. 球面のベクトル方程式	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	8
	【知識及び技能】 複素数平面について理解し、問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	第2章 複素数平面 1. 複素数平面 2. 複素数の和と差 3. 複素数の極系形式 4. ド・モアブルの定理 5. 複素数と平面図形 6. 複素数平面上の点の軌跡	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
2 学期	【知識・技能】 2字曲線について理解し、問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	第3章 式と曲線 第1節 2字曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2字曲線の平行移動 5. 2字曲線と直線	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】 媒介変数表示と極座標について理解し、問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	第3章 式と曲線 第2節 媒介変数表示と極座標 1. 曲線の媒介変数表示 2. 極座標と極方程式 3. コンピュータといるいような曲線	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3 学期	【知識・技能】 データの表現方法について理解し、問題を解くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 公式を適切に使用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題の解き方を他者に説明できる	第4章 数学的な表現の工夫 1. データの表現方法の工夫 2. 行列による表現 3. 離散グラフによる表現 4. 離散グラフと行列の関連	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	10
							合計 70

年間授業計画

三宅 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 理科 科目 化学

教 科： 理科 科 目： 化学 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 F 組

教科担当者：見上 武

使用教科書：（ 化学 東京書籍 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質とその変化について理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。	観察、実験などを行い、化学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	周期表と元素、非金属元素について、観察、実験などを通して、理解する。 周期表と元素、非金属元素について、問題を見出し見通しをもつて観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 周期表と元素、非金属元素に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・元素の分類と周期表 ・水素と希ガス ・ハロゲン ・酸素と硫黄	【知識・技能】 周期表と元素、非金属元素について、観察、実験などを通して、理解する。 【思考・判断・表現】 周期表と元素、非金属元素について、問題を見出し見通しをもつて観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 周期表と元素、非金属元素に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	窒素、リン、炭素、ケイ素について観察、実験などを通して、理解する。 窒素、リン、炭素、ケイ素について、問題を見出し見通しをもつて観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 窒素、リン、炭素、ケイ素に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・窒素とリン ・炭素とケイ素	【知識・技能】 窒素、リン、炭素、ケイ素について観察、実験などを通して、理解する。 【思考・判断・表現】 窒素、リン、炭素、ケイ素について、問題を見出し見通しをもつて観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 窒素、リン、炭素、ケイ素に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	○	○	○	18
	典型金属元素、遷移金属元素についての観察、実験などを通して、理解する。 典型金属元素、遷移金属元素について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 典型金属元素、遷移金属元素に関する事物・現象に主体的に関わる。	・アルカリ金属と2族元素 ・アルミニウム、亜鉛、スズ、鉛 ・鉄、銅、銀、金 ・クロム、マンガン ・金属イオンの分離	【知識・技能】 典型金属元素、遷移金属元素についての観察、実験などを通して、理解する。 【思考・判断・表現】 典型金属元素、遷移金属元素について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 典型金属元素、遷移金属元素に関する事物・現象に主体的に関わる。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学 期	飽和炭化水素、不飽和炭化水素についての観察、実験などを通して、理解する。 飽和炭化水素、不飽和炭化水素について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 飽和炭化水素、不飽和炭化水素に関する事物・現象に主体的に関わる。	・飽和炭化水素 ・不飽和炭化水素	【知識・技能】 飽和炭化水素、不飽和炭化水素についての観察、実験などを通して、理解する。 【思考・判断・表現】 飽和炭化水素、不飽和炭化水素について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 飽和炭化水素、不飽和炭化水素に関する事物・現象に主体的に関わる。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
	アルコールと関連化合物についての観察、実験などを通して、理解する。 アルコールと関連化合物について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 アルコールと関連化合物に関する事物・現象に主体的に関わる。	・アルコールとエーテル ・アルデヒドとケトン、エステル ・芳香族炭化水素 ・フェノール類	【知識・技能】 アルコールと関連化合物についての観察、実験などを通して、理解する。 【思考・判断・表現】 アルコールと関連化合物について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 アルコールと関連化合物に関する事物・現象に主体的に関わる。	○	○	○	7

	芳香族化合物と高分子化合物についての観察、実験などを通して、理解する。 芳香族化合物と高分子化合物について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 芳香族化合物と高分子化合物に関する事物・現象に主体的に関わる。	・芳香族カルボン酸 ・芳香族アミン、アゾ化合物 ・有機化合物の分離 ・高分子化合物の構造と性質	【知識・技能】 芳香族化合物と高分子化合物についての観察、実験などを通して、理解する。 【思考・判断・表現】 芳香族化合物と高分子化合物について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 芳香族化合物と高分子化合物に関する事物・現象に主体的に関わる。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
3 学 期	高分子化合物について、化学的な側面から理解させる。 高分子化合物について、問題を見出し、科学的に考察し表現する。 高分子化合物に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・天然高分子化合物 ・合成高分子化合物	【知識・技能】 高分子化合物について、化学的な側面から理解させる。 【思考・判断・表現】 高分子化合物について、問題を見出し、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 高分子化合物に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	○	○	○	34
	定期考査						1
				○	○		合計
							140

三宅高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 理科 科目 物理

教 科： 理科 科 目： 物理 単位数： 6 単位

対象学年組：第 3 学年 F 組

教科担当者：見上 武

使用教科書：（ 物理 東京書籍 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物理現象について理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物理現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	水平投射、斜方投射を理解する 力のモーメント、重心、剛体のつり合い条件を理解する 運動量と力積の関係を理解する 運動量保存と反発係数を理解する 円運動を理解する 慣性力について理解する	放物運動 剛体のつり合い 運動量と力積 運動量保存、反発係数 円運動 慣性力と遠心力	【知識・技能】 小テスト、定期考査、発問への応答 【思考・判断・表現】 小テスト、定期考査、発問への応答 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物（ノート等の課題）、授業への意欲	○	○	○	20
	単振動を理解する 万有引力の法則を理解する 正弦波を理解する 音波を理解する	単振動 万有引力 正弦波 音波	【知識・技能】 小テスト、定期考査、発問への応答 【思考・判断・表現】 小テスト、定期考査、発問への応答 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物（ノート等の課題）、授業への意欲	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
	光の性質について理解する 光の回折、干渉について理解する 気体分子運動論、熱力学第一法則を理解する 気体について、定積、定圧、等温、断熱変化を理解する	光の性質 光の回折、干渉 気体の法則と分子運動 気体の内部エネルギーと仕事	【知識・技能】 小テスト、定期考査、発問への応答 【思考・判断・表現】 小テスト、定期考査、発問への応答 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物（ノート等の課題）、授業への意欲	○	○	○	26
	クーロンの法則、電場、電位、コンデンサーについて理解する	電場と電位、コンデンサー	【知識・技能】 小テスト、定期考査、発問への応答 【思考・判断・表現】 小テスト、定期考査、発問への応答 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物（ノート等の課題）、授業への意欲	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1

2 学 期	電流のモデル化と抵抗接続を理解する キルヒホッフの法則を理解する 電流と磁場の向きを理解する 電流と磁場と力の向きを理解する ローレンツ力の大きさと向きを理解する	電流と抵抗 直流回路 磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力	【知識・技能】 小テスト、定期考査、発問への応答 【思考・判断・表現】 小テスト、定期考査、発問への応答 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物（ノート等の課題）、授業への意欲	○	○	○	26
	磁束の変化と誘導電流の向き、大きさを理解する 交流回路のリアクタンスを理解する 半導体、ダイオードの特性について理解する 陰極線と電子について理解する	電磁誘導 交流 半導体 電子	【知識・技能】 小テスト、定期考査、発問への応答 【思考・判断・表現】 小テスト、定期考査、発問への応答 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物（ノート等の課題）、授業への意欲	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
	光子について理解する X線の発生や種類について理解する 粒子の波動性について理解する 原子の構造について理解する 放射性崩壊について理解する	光の粒子性 X線 粒子の波動性 原子の構造 原子核と放射線	【知識・技能】 小テスト、定期考査、発問への応答 【思考・判断・表現】 小テスト、定期考査、発問への応答 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物（ノート等の課題）、授業への意欲	○	○	○	28
	核反応とエネルギーについて理解する 素粒子の種類や宇宙の歴史について理解する 大学入試または各々の目標に向けた問題演習	核反応とエネルギー 素粒子と宇宙 問題演習	【知識・技能】 小テスト、定期考査、発問への応答 【思考・判断・表現】 小テスト、定期考査、発問への応答 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物（ノート等の課題）、授業への意欲	○	○	○	28
	定期考査			○	○		1
3 学 期	(3年自由登校) 必要に応じ適宜対応	(3年自由登校) 必要に応じ適宜対応	(3年自由登校) 必要に応じ適宜対応				0
							合計
							210

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 理科 科目 生物

教 科： 理科 科 目： 生物 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 F 組

教科担当者：加藤 千鶴

使用教科書：（ 生物 実教出版 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物や生物現象についての観察、実験などを行うことで生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技を身に付ける。	生物現象から、探究の過程を通して観察、情報収集、仮説設定、実験計画、検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を育む。	生物現象に主体的に関わり、気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。また、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第4章 生物の環境応答 1節 動物の反応	・刺激を受容する器官、神経の興奮とその伝達、中枢神経系の働き、動物の反応について知らせ、刺激の受容から反応までの関連を把握させる。 ・刺激を受容する器官については、代表的な例を中心に理解させる。 ・神経の興奮では、興奮の発生・伝導・伝達を理解させる。 ・脳のつくりでは、大脳、間脳、中脳、小脳、延髄に分けられることや灰白質や白質などについて理解させる。	【知識・技能】 ・神経の構造と興奮の発生・伝導・伝達の関係の学習から、動物が能動的に外部環境に反応することを理解している。 ・脳などの中枢神経系の働きを理解し、脊ついで動物のからだが巧妙に調節されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・眼を中心とした受容器の構造と機能を開心をもって学習し、光量調節や遠近調節などのしくみを説明できる。 ・骨格筋が収縮するしくみを理解し、筋収縮に必要なエネルギーがどのように供給されるのかについて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・動物の反応に関して総合的に理解しようとしている。	○	○	○	32
	定期考查			○	○		1
	2節 動物の行動	・動物の行動は、代表例を探究的に考察させる。	【知識・技能】 ・動物の行動は、刺激の受容にはじまる一連のしくみによって成立していることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・学習による行動の発達と神経系の発達との関係を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・動物の行動に関して総合的に理解しようとしている。	○	○	○	12
	定期考查			○	○		1
2 学 期	3節 植物の成長と環境応答	・環境によって制御される、植物の伸長成長、種子の発芽や花芽の形成などの現象を理解させる。 ・光屈性のしくみの説明を通じて、それらの現象が環境との関連でどのように制御されているのか、それが解明されてきた過程を重視して、探究的に考察させる。	【知識・技能】 ・植物が外部の環境に影響されてみせる様々な現象を、屈性などの伸長成長や、発芽、花芽形成などの器官分化などの学習を通じて身につけている。 ・植物の生殖細胞がつくられる過程を理解している。 【思考・判断・表現】 ・伸長成長や、発芽、器官分化などの現象が巧妙に制御されていること、それらがさまざまな実験によって明らかにされてきたことを理解し、科学的に判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・植物の反応や調節が植物ホルモンによって行われていることを理解し、身につけようとする。	○	○	○	20
	定期考查			○	○		1
	第5章 生態と環境 1節 個体群と生物群集	・生物と環境との関わりについて理解させる。 ・自然界における生物についての見方や考え方を身につけさせる。 ・密度効果がない場合とある場合とでは個体群の成長の様式に違いがあることを理解させる。 ・安定した個体群が維持されるしくみについては、個体群内部におけるしくみや他の個体群との関係を適応戦略などの観点から理解させる。 ・生物群集内での個体群間の相互作用などを理解させる。 ・生物群集を構成する様々な個体群がそれぞれ特有の生態的地位を占め、相互に関係を保つことによ	【知識・技能】 ・ウキクサを用いた実験から、個体群がどのように成長するかを理解することができる。また、個体群の密度の変化が、個体数や個体の形質に影響を及ぼすことを理解している。 ・異なる2種の個体群間の関係、さらに、より多くの個体群から形成されている生物群集の構造や働きとその変動を理解している。 【思考・判断・表現】 ・2種の生物の個体数変動のグラフから、被食者と捕食者の個体数が周期的に変動することを見いだして理解することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物の生活は環境と深い関わりをもっていることを、身近な現象についてとり上げながら、すでに学習した知識を活用して考えようとする。	○	○	○	20

		り、生物群集が維持されていることを理解させる。					
	2節 生態系	・生態系における物質生産とエネルギー効率について学ぶ。 ・生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。	【知識・技能】 ・生態系の構造や働きと、その平衡のしくみを理解している。 ・窒素循環については、植物の窒素同化のしくみもあわせて理解している。また、脱窒や植物と根粒菌との共生についても理解している。 【思考・判断・表現】 ・生態系の構造や働きを、物質循環・エネルギーの流れの観点から考察し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・それまでに学習した内容から、人類の活動と自然破壊の関連性について考察し、自然保護・環境保全の意義を実感として理解しようとするとともに、主体的に行動できるような意識をもつ。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
3 学 期	総合演習	問題演習		○	○	○	35
	定期考査			○	○		1
							合計 140

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 3 単位

対象学年組：第 3 学年 普通科・併合科

教科担当者： 安井 瑛奈 小高 海穂

使用教科書：（新高等 保健体育 大修館書店）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに。健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	○体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、健康・安全を確保することができるようにする。	体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に活かす運動の計画	○体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることを言ったり書き出したりしている。リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して、気持ちいたり関わり合ったりすることができる。体調の維持などの健康の保持増進をねらいとして、各種の有酸素運動や体操などの施設や器具を用いず手軽に行う運動例や適切な食事や睡眠の管理の仕方を取り入れて、卒業後も継続可能な手軽な運動の計画を立てて取り組むことができる。 ○生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案し、他者に伝えている。 ○体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	○	○	○	10
	○技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができるようにすることができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○器械運動に主体的に取り組むとともに、よい演技を讃たえようとし、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保することができるようにする。	器械運動 ア マット運動 エ 跳び箱運動	○自己の能力に応じた技で組み合わせたり、異なる技群で構成したりするなどの発表に向けた演技構成の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。発表会や競技会で、演技構成の仕方、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○選択した技の行い方や技の組合せ方について、自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに器械運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。器械運動の学習成果を踏まえ、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。 ○自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。	○	○	○	15
	○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保することができるようにする。	球技 ・ネット型（テニス）	○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。サービスでは、ボールに変化をつけて打つことができる。変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすることができる。ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。 ○課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について仲間に提案している。 ○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	○	○	○	16

2 学 期	○記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐことができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○水泳に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	水泳 ア クロール イ 平泳ぎ ウ 背泳ぎ エ バタフライ	○水泳では、各種目や運動の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、効率のよい泳ぎにつながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることを言ったり、書いたりしている。肘を曲げて腕全体で水をとらえ、加速するようにかくことができる。（クロール）ブルのかき終わりと同時に、顎を引いて口を水面上に出して息を吸い、キックの蹴り終わりに合わせて、流線型の姿勢を維持して大きく伸びることができる。（平泳ぎ）水平姿勢を維持しながら泳ぐことができる。（背泳ぎ）体のうねり動作に合わせたしなやかなドルフィンキックをすることができる。（バタフライ） ○課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。 ○水泳の学習に主体的に取り組もうとしている。 ○水泳の事故防止の心得を遵守し、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保しようとしている。	○	○	○	16
	○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	球技 ・ベースボール型（ソフトボール）	○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。守備スペースが空いた方向をねらってボールを打ち返すことができる。仲間の走者の動きに合わせて、塁を進んだり戻ったりすること。仲間の送球に対して次の送球をしやすいようにボールを受けることができる。打者の特徴や走者の位置に応じた守備位置に立つことができる。 ○課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。 練習やゲームを行う場で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について仲間に提案している。 ○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	○	○	○	15
	○記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。 ○ペースの変化に対応して走ることができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	陸上競技 ア 長距離走	○陸上競技では、各種目の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的な練習の仕方があることを言ったり書き出したりしている。自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ることができる。 ○課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。 ○陸上競技の学習に主体的に取り組もうとしている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。	○	○	○	15

3 学 期	○豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解することができるようにする。 ○豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。 ○豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。	体育理論 (ア) ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方 (イ) ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方 (ウ) スポーツ推進のための施策と諸条件 (エ) 豊かなスポーツライフが広がる未来の社会	○スポーツは、各ライフステージにおける身体的、心理的、社会的特徴に応じた多様な楽しみ方があること。また、その楽しみ方は、個人のスポーツに対する欲求などによっても変化することを言ったり書き出したりしている。生涯にわたってスポーツを継続するためには、ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方を見付けること、仕事と生活の調和を図ること、運動の機会を生み出す工夫をすることなどが必要であることを言ったり、書き出したりしている。スポーツの推進は、様々な施策や組織、人々の支援や参画によって支えられていることを言ったり書き出したりしている。人生に潤いをもたらす貴重な文化的資源として、スポーツを未来に継承するためには、スポーツの可能性と問題点を踏まえて適切な「する、みる、支える、知る」などの関わりが求められることを言ったり、書き出したりしている。 ○ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見し、他者へ伝えようとしている。豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えようとしている。 ○豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	球技 ・ネット型（卓球）	○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。サービスでは、ボールに変化をつけて打つことができる。変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすることができる。ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。 ○課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。 ・練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について仲間に提案している。 ○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	○	○	○	12
	合計						105

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 体育演習（選択科目）

教科： 保健体育 科目： 体育演習（選択科目） 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年

教科担当者：安井 瑛奈 小高 海穂

使用教科書：（新高等 保健体育 大修館書店）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育演習（選択科目） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	○技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができるようにする。 ○回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○器械運動に主体的に取り組むとともに、よい演技を讀めたえようとして、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	器械運動 ア マット運動 エ 跳び箱運動	○器械運動では、技の系、技群、グループの系統性の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることを言ったり、書き出したりしている。 ○新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回転することができる。 ○選択した技の行い方や技の組合せ方について、自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。 ○自己の状況にかかわらず、よい演技を讀えようとしている。	○	○	○	9
	○感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、交流や発表の仕方、課題解決の方法、体力の高め方などを理解するとともに、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすることができるようにする。 ○現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、合意形成に貢献しようとして、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	ダンス ウ 現代的なリズムのダンス	○ダンスでは、各ダンスで用いられる名称や用語があり、それぞれのダンスには、表現や踊りにつながる重要な動きや空間の使い方などのポイント及び安全で合理的、計画的な練習の仕方があることを言ったり、書き出したりしている。 ○選んだリズムや音楽の特徴を捉え、変化のある動きを連続して、個と群や空間の使い方を強調した構成でまとまりを付けて踊ることができる。 ○選択したダンスについて、自己や仲間の動きや表現を分析して、良い点や修正点を指摘している。 ○作品づくりなどの話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。	○	○	○	9
	○記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐことができるようになる。 ○複数の泳法で長く泳ぐこと又はリレーをすることができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○水泳に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとして、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	水泳 ク クロール イ 平泳ぎ ウ 背泳ぎ エ バタフライ オ 複数の泳法で泳ぐこと、又はリレー	○水泳では、各種目や運動の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、効率のよい泳ぎにつながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることを言ったり書き出したりしている。 ○選択した泳法で長く泳ぐことができる。 ○選択した泳法について、自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。 ○水泳の事故防止の心得を遵守し、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保することができる。	○	○	○	8

2 学 期	○勝敗を競い合ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解するとともに、得意技などを用いた攻防を展開することができるようにする。 ○素早くしかけたり応じたりするなどの攻防をすることができるようにする。 ○生涯にわかって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○武道に主体的に取り組むとともに、相手に尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	武道（薙刀）	○武道では、各種目で用いられる技の名称や用語があり、それぞれの技には、技の向上につながる必要な動きや用具の操作のポイント及び安全で合理的、計画的な練習の仕方があることを言ったり、書き出したりしている。 ○基本動作から、基本となる技と打ち返しができる。 ○課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見している。 ○相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。	○	○	○	10
	○体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 ○実生活に生かす運動の計画では、自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	体づくり運動 イ 実生活に活かす運動の計画	○体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることを言ったり、書き出したりしている。 ○調和のとれた体力を高めることをねらいとして、体力測定の結果などを参考に、定期的な運動の計画を見直して取り組むことができる。 ○体づくり運動の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。 ○危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保しようとしている。	○	○	○	10
	○記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。 ○ペースの変化に対応して走ることができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	陸上競技 イ 長距離走	○陸上競技では、各種目の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的な練習の仕方があることを言ったり書き出したりしている。 ○自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ることができる。 ○課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。 ○陸上競技の学習に主体的に取り組もうとしている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。	○	○	○	10
3 学 期	○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 ○主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。	球技 イ ネット型（卓球）	○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。 ○サーブでは、ボールに変化をつけて打つことができる。変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすることができる。ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。 ○課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。 ○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	○	○	○	14
							合計
							70

音楽 科目 器楽B

单位数： 2 单位

使用教科書：（各樂譜）

の目標：

【知識及び技能】音楽に関する幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】音楽に関する知識や技能を働かせ、音楽の表現内容を解釈したり、表現意図をもつことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 主体的に音楽に関する学習に取り組む態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身につけるようにする	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする	音楽性豊かな表現を追求する態度を養う

[illegible]

科目 クラフトデザイン基礎

の目標・

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し、構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵・ 影	デ	映						
1 学 期	A 単元 ランプシェードを作る 【知識及び技能】 和紙、木材を使用した表現の知識・ 技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 素材の特徴や、良さから主題を設定し、 構想を練り表現方法の工夫を考 える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に構成を考え、計画的に表 現活動に取り組む力を養う	・指導事項 素材を生かして、光や色の効果を 考えながらランプシェードのデザ インを考える。 ・教材 和紙、木材、LEDランプ他		○	○	【知識・技能】形や色、材料がもたらす効果 や造形的な特徴をもとに、デザインを全体の イメージや作風、様式などで捉えることを理 解している。主題に合わせて形や色、材料、 構造などを工夫し、個性豊かで創造的に表 している。 【思考力・判断力・表現力】社会におけるデ ザインの機能や効果、作品の形態や表現方 法、形や色、材料、構造などについて考え、 個性を生かし創造的な表現の構想を練って いる。デザインの目的や機能の調和のとれた美 しさなどを感じ取り、発想や独自性と表現の 工夫などについて考えるとともに、見方や考 え方を深めている。 【主体的に学習に取り組む力】主体的にデザ インを工夫する表現の創造活動に取り組もう としている。主体的にデザインの目的や機能 の調和のとれた美しさを感じ取り、表現の意 図や工夫について考えるとともに、鑑賞の創 造活動に取り組もうとしている。	○	○	○	28	
2 学 期	A 単元 トンボ玉を作る 【知識及び技能】 ガラスを使用した表現の知識・技 術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 素材の特徴や、良さから主題を設定し、 構想を練り表現方法の工夫を考 える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に構成を考え、計画的に表 現活動に取り組む力を養う	・指導事項 素材を生かして、光や色の効果を 考えながらトンボ玉のデザインを 考える。 ・教材 ガラス棒、芯、こて他		○	○	【知識・技能】形や色、材料がもたらす効果 や造形的な特徴をもとに、デザインを全体の イメージや作風、様式などで捉えることを理 解している。主題に合わせて形や色、材料、 構造などを工夫し、個性豊かで創造的に表 している。 【思考力・判断力・表現力】社会におけるデ ザインの機能や効果、作品の形態や表現方 法、形や色、材料、構造などについて考え、 個性を生かし創造的な表現の構想を練って いる。デザインの目的や機能の調和のとれた美 しさなどを感じ取り、発想や独自性と表現の 工夫などについて考えるとともに、見方や考 え方を深めている。 【主体的に学習に取り組む力】主体的にデザ インを工夫する表現の創造活動に取り組もう としている。主体的にデザインの目的や機能 の調和のとれた美しさを感じ取り、表現の意 図や工夫について考えるとともに、鑑賞の創 造活動に取り組もうとしている。				18	
3 学 期	A 単元 寄木細工でプレートを作る 【知識及び技能】 木材を使用した表現の知識・技術 を養う 【思考力、判断力、表現力等】 素材の特徴や、良さから主題を設定し、 構想を練り表現方法の工夫を考 える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に構成を考え、計画的に表 現活動に取り組む力を養う	・指導事項 素材を生かして、色や形の効果を 考えながら木材プレートのデザ インを考える。 ・教材 木材、ボンド、ノコギリ他		○	○	【知識・技能】形や色、材料がもたらす効果 や造形的な特徴をもとに、デザインを全体の イメージや作風、様式などで捉えることを理 解している。主題に合わせて形や色、材料、 構造などを工夫し、個性豊かで創造的に表 している。 【思考力・判断力・表現力】社会におけるデ ザインの機能や効果、作品の形態や表現方 法、形や色、材料、構造などについて考え、 個性を生かし創造的な表現の構想を練って いる。デザインの目的や機能の調和のとれた美 しさなどを感じ取り、発想や独自性と表現の 工夫などについて考えるとともに、見方や考 え方を深めている。 【主体的に学習に取り組む力】主体的にデザ インを工夫する表現の創造活動に取り組もう としている。主体的にデザインの目的や機能 の調和のとれた美しさを感じ取り、表現の意 図や工夫について考えるとともに、鑑賞の創 造活動に取り組もうとしている。				24 合計 70	

科目 英語コミュニケーションⅢ

單位數： 4 單位

使用教科書：（ BIG DIPPER III ）

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】 英語に興味を持たせ、生徒自身の可能性に気付かせるとともに、高校卒業後も自ら学び続けられるような動機づけをする

科目 英語コミュニケーションⅢ の目標：

[illegible]

科目 英語演習Ⅱ

单位数： 2 单位

組～ 組

(組：

)

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】大学受験につなげるための基礎的な読解力、リスニング能力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】粘り強く技能の獲得に取り組む。反復練習を継続して基礎固めをする。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
課題や演習問題で出てきた単語、文法知識を確実にする。	一定量の文章を一定時間内に読解し、的確に内容把握できる。同様にリスニングにおいても的確に内容把握できる。	授業の活動や宿題に、積極的に継続して取り組める。

[illegible]

英語コミュニケーションⅢ

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標:

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕	書					
1 学 期	・if節、疑問詞節の用法を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	・新出単語と文法項目を身につけている ・単元に関する話題やそれに関連した話題について表現できる ・授業中の活動や宿題などに、間違いを恐れずに取り組もうとしている	○	○	○	11
	・seemの用法を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	・新出単語と文法項目を身につけている ・単元に関する話題やそれに関連した話題について表現できる ・授業中の活動や宿題などに、間違いを恐れずに取り組もうとしている	○	○	○	12
	定期考査								○	○		1
2 学 期	・助動詞+have+過去分詞の用法を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	・新出単語と文法項目を身につけている ・単元に関する話題やそれに関連した話題について表現できる ・授業中の活動や宿題などに、間違いを恐れずに取り組もうとしている				13
	・過去完了形の用法を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	・新出単語と文法項目を身につけている ・単元に関する話題やそれに関連した話題について表現できる ・授業中の活動や宿題などに、間違いを恐れずに取り組もうとしている	○	○	○	14
	定期考査								○	○		1
3 学 期	・関係代名詞whatの用法を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	・新出単語と文法項目を身につけている ・単元に関する話題やそれに関連した話題について表現できる ・授業中の活動や宿題などに、間違いを恐れずに取り組もうとしている	○	○	○	9
	・関係副詞の用法を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	・新出単語と文法項目を身につけている ・単元に関する話題やそれに関連した話題について表現できる ・授業中の活動や宿題などに、間違いを恐れずに取り組もうとしている	○	○	○	9 合 計

年間授業計画

三宅 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 農業 科目 草花

教 科： 農業 科 目： 草花 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 N 組

教科担当者：（F組：石井 陽次）

使用教科書：（ 草花（実教出版） ）

教科 農業 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】課題の解決に向け、探究的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、対応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

科目 草花 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第7章花壇用草花生産 【知識及び技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業をすること。 【思考力、判断力、表現力等】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討すること。 【学びに向かう力、人間性等】 種子袋から、植物にあった播種・育苗方法をとらえること。	1. 花壇用草花生産の特色 (2) 花壇用草花の種類 3. 花壇用草花の栽培 (1) ペチュニア (4) ペゴニア センパフローレンス (7) その他の花壇用草花 ニチニチソウ・マリーゴールド	【知識・技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業をすることができるか。 【思考・判断・表現】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら実習に取り組もうとしているか。 自分の作業を振り返り、反省点を挙げて改善しようと取り組んでいるか。	○	○	○	6
	第3章生活と草花の利用 【知識及び技能】 聞き手側に理解しやすい花壇設計の発表や、図面を仕上げること。 【思考力、判断力、表現力等】 草花の特徴を踏まえたうえで花壇のデザインを設計すること。 【学びに向かう力、人間性等】 三宅島らしさや農業科の特性を踏まえ、創造的な花壇設計を行うこと。	1. 草花の多面的利用 (1) 草花利用の意義 (2) 草花の利用 2. 園芸デザイン (1) 園芸デザインと草花の装飾的特徴 (2) 園芸デザインの基本 (3) 園芸デザインの実例	【知識・技能】 花壇設計において、草花の特徴を抑えてデザインすることができているか。 自身のイメージした花壇を図面上に描き起こすことができるか。 【思考・判断・表現】 草花の高さや色合いなどの特徴を踏まえ、花壇のデザインすることができているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループで協力して作業を行うことができているか。 設計図面やレポート課題を期限以内に提出できているか。 花壇設計の発表で、自身の花壇の魅力を伝えようとしているか。	○	○	○	8
	第7章花壇用草花生産 【知識及び技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、特性に応じて鉢上げ作業や植え付けをすること。 【思考力、判断力、表現力等】 草花の特徴を踏まえたうえで花壇のデザインを設計すること。 【学びに向かう力、人間性等】 鉢上げ作業や植え付け作業において、設計に沿って施工し、見栄えの良いものを施工しようとする	1. 花壇用草花生産の特色 (2) 花壇用草花の種類 3. 花壇用草花の栽培 (1) ペチュニア (4) ペゴニア センパフローレンス (7) その他の花壇用草花 ニチニチソウ・マリーゴールド	【知識・技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、適切な鉢上げ作業や植え付け作業ができるか。 【思考・判断・表現】 草花の高さや色合いなどの特徴を踏まえ、花壇のデザインが設計できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループで協力して作業を行うことができているか。レポート課題を期限以内に提出できているか。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第7章花壇用草花生産 【知識及び技能】 秋まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業をすること。 【思考力、判断力、表現力等】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討すること。 【学びに向かう力、人間性等】 種子袋から、植物にあった播種・育苗方法をとらえること。	1. 花壇用草花生産の特色 (2) 花壇用草花の種類 3. 花壇用草花の栽培 (2) パンジー・ビオラ (3) ハボタン (4) ペゴニア (7) その他の花壇用草花	【知識・技能】 秋まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業及び鉢上げ作業をすることができるか。 【思考・判断・表現】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら実習に取り組もうとしているか。 自分の作業を振り返り、反省点を挙げて改善しようと取り組んでいるか。	○	○	○	9
	第3章生活と草花の利用 【知識及び技能】 聞き手側に理解しやすい花壇設計の発表や、図面を仕上げること。 【思考力、判断力、表現力等】 草花の特徴を踏まえたうえで花壇のデザインを設計すること。 【学びに向かう力、人間性等】 三宅島らしさや農業科の特性を踏まえ、創造的な花壇設計を行うこと。	1. 草花の多面的利用 (1) 草花利用の意義 (2) 草花の利用 2. 園芸デザイン (1) 園芸デザインと草花の装飾的特徴 (2) 園芸デザインの基本 (3) 園芸デザインの実際	【知識・技能】 花壇設計において、草花の特徴を抑えてデザインすることができるか。 自身のイメージした花壇を図面上に描き起こすことができるか。 【思考・判断・表現】 草花の高さや色合いなどの特徴を踏まえ、花壇のデザインすることができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループで協力して作業を行うことができるか。 設計図面やレポート課題を期限以内に提出できているか。 花壇設計の発表で、自身の花壇の魅力を伝えようとしているか。	○	○	○	8
	第5章切り花生産 【知識及び技能】 切り花生産に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 露地栽培と施設栽培、促成栽培と抑制栽培などの各種作型を理解させ、地域の環境や施設利用を考慮した栽培計画を立てさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 草花の生理的・生態的な特性や栽培に適する環境について理解させるとともに、切り花生産の施設・設備・資材について有効利用が図れるように指導する。	3. 一・二年草の切り花 (1) 一・二年草の切り花の種類と特性 (2) トルコギキョウ (6) デルフィニウム 4. 宿根草の切り花 (1) 宿根草の切り花の種類と特性 (2) キク (5) ガーベラ (9) その他の宿根草の切り花	【知識・技能】 秋まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業及び鉢上げ作業をすることができるか。 【思考・判断・表現】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら実習に取り組もうとしているか。 自分の作業を振り返り、反省点を挙げて改善しようと取り組んでいるか。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第5章切り花生産 【知識及び技能】 切り花生産に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 露地栽培と施設栽培、促成栽培と抑制栽培などの各種作型を理解させ、地域の環境や施設利用を考慮した栽培計画を立てさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 草花の生理的・生態的な特性や栽培に適する環境について理解させるとともに、切り花生産の施設・設備・資材について有効利用が図れるように指導する。	2. 切り花の品質保持 (1) 切り花の品質変化 (2) 切り花の品質管理技術 6. 花木の切り花 (2) 花木の切り花の種類と特性	【知識・技能】 花木の種類と特徴を理解し、剪定及び管理作業をすることができるか。 【思考・判断・表現】 地域の環境にあった花木の種類や、花木の管理方法について検討することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら実習に取り組もうとしているか。 自分の作業を振り返り、反省点を挙げて改善しようと取り組んでいるか。	○	○	○	6
	第6章鉢ものの生産 【知識及び技能】 鉢ものの生産に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得を図る。 【思考力、判断力、表現力等】 鉢ものの生産の特色を理解させ、地域の環境や施設利用を考慮した生産計画を立てさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 育苗管理・栽培管理は、経験が必要な技術が多く、反復練習が大切であることを理解させ、実習を通して修得させる。	4. ラン類 (1) ラン類の種類と特性 (2) ファレノプシス (3) シンビジウム (4) カトレア類 (6) その他の洋ラン	【知識・技能】 観葉植物及びラン類の種類や特徴を理解し、管理作業ができるか。 【思考・判断・表現】 地域の環境にあったランの種類や、ラン類の管理方法について検討することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら実習に取り組もうとしているか。 自分の作業を振り返り、反省点を挙げて改善しようと取り組んでいるか。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
							合計 70

70

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 農業 科目 食品製造

教科 科： 農業 科 目： 食品製造 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 N 組～ 組

教科担当者： 川村拓也

使用教科書： （ ）

教科 農業 の目標：
【知識及び技能】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、探究的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、対応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

科目 食品製造 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品製造について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身につけている。	食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるようみずから学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第3章 食品の変質と貯蔵 ○食品を変質させる要因は複数の要因があり、それらの要因が複雑に絡んでいることを理解させる。 ○食品の貯蔵法が、様々な方法を用いて水分、温度、空気組成等の諸条件を変化させることで食品の変質要因を少なくしていることを理解させる。	1 食品の変質とその原因 ① 生物的要因による変質 ② 物理的・化学的要因による変質 2 食品の貯蔵法 ① 食品の貯蔵法の種類 ② 乾燥による貯蔵	【知識・技能】 加工した食品の品質を維持するために、食品の変質の仕組みを理解し、それを防ぐために様々な食品の種類に応じた貯蔵法が存在していることを理解している。 食品の変質を防ぐために食品に応じた貯蔵法が設定されているが、それらの貯蔵法により食品の品質にどのような変化が生ずるのか、知識を活用して調査することができる。 【思考・判断・表現】 食品の変質を防ぐために、食品に応じた設定されている様々な貯蔵法について、市販されている加工食品に記載されている保存方法をまとめ、保存方法の仕組みについて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 加工した食品の品質を維持するために、食品の変質の仕組みについて興味・関心を持ち、市販されている加工食品の種類による貯蔵法の違いについて探究しようとしている。	○	○	○	10
	付録 ① 茶 ○茶の特徴と種類を理解させる。 ○茶の代表的な加工品の緑茶の製造理論および製造方法を理解させる。	1 茶 ① 茶の種類 ② 茶の成分 ③ 茶の製造	【知識・技能】 原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 【思考・判断・表現】 農産物を原料とした加工食品の製造方法を踏まえ、地域の農産物の特徴を生かした加工食品を製造するプランを立てられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
	第3章 食品の変質と貯蔵 ○食品を変質させる要因は複数の要因があり、それらの要因が複雑に絡んでいることを理解させる。 ○食品の貯蔵法が、様々な方法を用いて水分、温度、空気組成等の諸条件を変化させることで食品の変質要因を少なくしていることを理解させる。	2 食品の貯蔵法 ③ 低温による貯蔵 ④ 殺菌による貯蔵 ⑤ 食塩・砂糖・酢による貯蔵 ⑥ 空気組成の調節による貯蔵 ⑦ 食品添加物による貯蔵	【知識・技能】 加工した食品の品質を維持するために、食品の変質の仕組みを理解し、それを防ぐために様々な食品の種類に応じた貯蔵法が存在していることを理解している。 食品の変質を防ぐために食品に応じた貯蔵法が設定されているが、それらの貯蔵法により食品の品質にどのような変化が生ずるのか、知識を活用して調査することができる。 【思考・判断・表現】 食品の変質を防ぐために、食品に応じた設定されている様々な貯蔵法について、市販されている加工食品に記載されている保存方法をまとめ、保存方法の仕組みについて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 加工した食品の品質を維持するために、食品の変質の仕組みについて興味・関心を持ち、市販されている加工食品の種類による貯蔵法の違いについて探究しようとしている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第5章 食品の包装と表示 ○食品の包装が、商品の貯蔵性を高めるだけでなく、輸送性の向上、商品性の向上を図ることができることを理解させる。 ○加工食品に適切な包装素材が使われていることを理解するとともに、包装容器が素材別にリサイクルされていることを理解させる。 ○食品の表示が、消費者へ食品の製造場所、原材料、消費及び賞味期限など必要な情報を伝える役割を持つことを理解させる。 ○特色のある原材料を使用した加工食品にJASマークが使われていることを理解させる。	1 食品の包装 ① 食品包装の目的と種類 ② 食品の包装材料 ③ 食品の包装形態と包装技術 ④ 容器包装リサイクル法 2 加工食品の表示制度 ① 食品表示の意義と制度 ② 食品と規格制度	【知識・技能】 食品の包装や表示について、包装素材が商品だけでなく環境に重視したものが使われ、表示が法令に遵守したものを使い、商品の品質が保証されることを理解している。 食品の包装や表示が、商品のイメージや品質を保証する機能を有することを踏まえ、実習で製造した製品にふさわしい包装のデザインができる。 【思考・判断・表現】 食品の包装や表示が、商品のイメージや品質を保証する機能を有することを踏まえ、実習で製造した商品の包装のデザインの意図を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食品の包装や表示が、商品のイメージや品質を保証するなど重要な機能を持つということに興味・関心を持ち、自分たちで包装のデザインを試みるなど実践的な態度を身に付けている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第9章 食品製造の実践と企業化 ○加工食品の製造工程に欠かせない加熱と冷却に使われている機器の仕組みを理解させる。 ○加工食品の品質保持のために使われる冷却装置の仕組みを理解させる。 ○加工食品の製造には、消費者の立場に立った品質管理が重要であることを理解させる。 ○加工食品の品質確保のために、製造施設及び従業員の管理も品質管理として重要であることを理解させる。 ○安全な加工食品の製造には、明確で無駄のない作業体系が必要であることを理解させる。	1 食品製造における機械と装置の利用 ① 加熱装置とその利用 ② 加熱殺菌と冷却 ③ 冷却装置とその利用 ④ かくはん混合 ⑤ 次世代の食品工場 2 品質管理 ① 品質管理の必要性 ② 従業員の管理と教育 ③ 施設・設備の整備と管理	【知識・技能】 食品の製造や保存に使われる機械の用途や特徴を理解している。 加工食品を衛生的かつ効率よく安定して製造するための検証・確立方法を理解している。 食品の製造や保存に使われる機械の用途を理解し、様々な場面で正しく機械を選択し使うことができる。 【思考・判断・表現】 食品の製造や保存に使われる機械を駆使し、衛生管理及び品質の安定した加工食品を提供するために作業体系を考案するとともに、作業チームとしてその内容を徹底するためにコミュニケーションを図りながら、作業体系を実行することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食品の製造や保存に使われる各種機械の構造や機能に興味・関心を持ち、用途に応じて正しい機械の使い方を学ぶ態度を身に付けている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第9章 食品製造の実践と企業化 ○作業体系が確立されているという基準にISOやHACCPが用いられることを理解させる。 ○加工食品を製造、販売して利益を上げるために、どのように企業の組織が成り立っているのか理解させる。 ○加工食品の価格を決定するために、どのようなことが考慮されているのか理解させる。	3 作業体系 ① 作業体系とは ② 作業体系の改善 4 食品製造の実践 ① 食品企業の経営 ② 新商品開発 ③ 生産性の向上 ④ 高校生による実践例	【知識・技能】 特徴ある加工食品を安定した品質で製造するために作業体系を検証し、改善策を考案することができる。 【思考・判断・表現】 食品の製造や保存に使われる機械を駆使し、衛生管理及び品質の安定した加工食品を提供するために作業体系を考案するとともに、作業チームとしてその内容を徹底するためにコミュニケーションを図りながら、作業体系を実行することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 加工食品を効率よく、かつ安定した製品を製造するための作業体系及び品質管理の確立について興味・関心を持ち、実習を通して安心安全な加工食品の製造を進める態度を身に付けている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
合計							
70							

年間授業計画

三宅 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科		家庭	科目	フードデザイン
教 科：	家庭	科 目：	フードデザイン	単位数： 2 単位
対象学年組：	第 3 学年	家政科		
教科担当者：	山田祥吾			
使用教科書：	（ フードデザイン （教育図書） ）			
教科	家庭	の目標：		

【知 識 及 び 技 能】	人間の生涯にわたる発達と食生活の営みを総合的に捉え、「食」の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、食生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	家庭や地域及び社会における食生活の中から問題や課題を見いだして解決策を考え、考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して食生活の問題や課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	生涯にわたり健康に生活するための食生活の構築に向けて、地域社会ともかかわり、自分や家庭、地域の食文化も学び、食を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目	フードデザイン	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。	人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作る場所から食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他と協働して取り組むことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	4章 調理の基本 ・何のために調理するのかを理解させる。 ・おいしさにかかわる条件を知り、調理にいかせるようにする。 ・だし、味覚効果、料理の触感や温度、素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解し、調理にいかせる。 ・計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具ごとの特徴などについて、具体的な知識と技術を身につけさせる。 ・調味に関する基本的な知識を習得させる。	4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 1項 調理の目的 2項 食べ物のおいしさ 2節 調理操作 1項 非加熱操作 2項 加熱操作 3項 加熱調理器具 3節 調味操作 1項 調味の目的 2項 調味をする段階	【知識・技能】 ・食品を衛生的に取り扱うことができる。 ・食品の生産・流通・加工などの現状が理解できる。 ・食品の衛生と安全に関する基本的な知識を身につけている。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について知識を習得することができる。 【思考・判断・表現】 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている。 ・食品の特性を図表などから科学的に考察できる。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化を実験を通して観察し、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康などの面から関心を持ち、学ぼうとする意欲が感じられる。 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている	○	○	○	16
	第6章 フードデザイン実習 ・調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかせる。 ・基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。	第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 1項 日常食の献立作成条件 2項 日常食の献立作成の手順		○	○	○	8
	定期考査			○	○		2
2 学 期	第5章 料理様式とテーブルコーディネート ・日本料理、西洋料理、中国料理等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について理解させる。 ・日本料理の献立の違いを知り、手順やサービス、マナーについて理解させる。 ・西洋料理の形式による違いを知り、手順やサービス、マナーについて理解させる。 ・地域によって異なる中国料理の特徴を知り、サービスやマナーについて理解させる。 ・和風・洋風・中国風ごとのテーブルコーディネートの特徴を知り、状況に応じたコーディネートについて考えさせたり、実際にコーディネートを実践させる。 ・コーディネートに必要な小物を製作させる。	1節 料理様式と献立 1項 日本料理の様式と献立 2項 西洋料理の様式と献立 3項 中国料理の様式と献立 2節 テーブルコーディネート 1項 テーブルコーディネートとは 2項 テーブルコーディネートの基本 3項 和風のテーブルコーディネート 4項 洋風のテーブルコーディネート 5項 中国風のテーブルコーディネート 6項 室内のコーディネート	【知識・技能】 ・様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身につけることができる。 ・食器・盛りつけ・テーブルクロス・照明などについて適切な取り扱いができる。 ・目的に応じたテーブルコーディネートができる。 ・具体的な食事テーマの設定、目的に応じた献立作成、献立に適した食品の選択、食品の調理性を踏まえた適切な調理について、理解できる。 【思考・判断・表現】 ・具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 ・作成した献立に適した食品を選択する事ができる。 ・食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や周囲の環境を判断することができる。 ・具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 ・作成した献立に適した食品を選択する事ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意	○	○	○	20

第6章 フードデザイン実習 ・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。 ・これまで身につけた知識を調理にいかし、手際よくつくることができるようにする。 ・基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。	第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 1項 日常食の献立作成条件 2項 日常食の献立作成の手順 3項 供応食・行事食 3項 テーマ設定と調理実習	スル、周囲の環境とふりかへりをつくる意欲・関心が感じられる。 ・食事のテーマにふさわしい献立を行おうとする意欲・関心が感じられる	○	○	○	6
定期考査			○	○		2
第6章 フードデザイン実習 ・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。 ・これまで身につけた知識を調理にいかし、手際よくつくることができるようにする。 ・基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。	第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 1項 日常食の献立作成条件 2項 日常食の献立作成の手順 3項 供応食・行事食 3項 テーマ設定と調理実習	【知識・技能】 ・具体的な食事テーマの設定、目的に応じた献立作成、献立に適した食品の選択、食品の調理性を踏まえた適切な調理について、理解できる。 【思考・判断・表現】 ・具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 ・作成した献立に適した食品を選択する事ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食事のテーマにふさわしい献立を行おうとする意欲・関心が感じられる。	○	○	○	15
定期考査			○	○		1
						合計
						70

家庭 科目 課題研究

单位数： 4 单位

対象学年組：第 3 学年 K 組～ 組

教科担当者： 山田祥吾、糸井蘭菜

使用教科書：（

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】

被服製作及び調理・献立作成等に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

被服製作及び調理・献立作成等に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

課題の解決に向け、探究的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、対応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

科目 課題研究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
調査や観察、実習などを通して考察や見解を理論的に考える力を養う。	各自の計画性、実践力及び問題解決能力や人間生活の様々な場面で、問題解決を対処できる能力を養う	自主的、継続的に学習する姿勢と、探求的、創造的な能力と態度および自己実現を図る能力と態度を養う

[illegible]

三宅 高等学校 令和7年度（2,3学年）教科 家庭 科目 食品

教 科： 家庭 科 目： 食品 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 K 組～ 3 学年 N組

教科担当者： （2K：手塚 （3F：手塚

使用教科書： （ ）

教科 家庭 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知 識 及 び 技 能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 食品 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、多様な食品を適切に選択、活用して食生活の向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品の分類とその特徴、食品の機能、食品の表示、食品の加工と貯蔵などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食品に関する課題を発見し、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	適切な食品の選択や活用の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	食品の特徴と性質 ・植物性食品：米、小麦、とうもろこし、大麦、そば、燕麦について理論的理解をする。 ・動物性食品：魚介類について理論的理解をする。 【知識及び技能】 食品の分類とその特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 食品に関する課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 植物性食品・動物性食品の特徴と性質を理解している。 【思考・判断・表現】 ワークシートに、植物性食品・動物性食品についてまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークによる相互評価（判別実習がきちんとできている）	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	食品の特徴と性質 ・植物性食品：いも、でんぷん類、砂糖、甘味料の種類と性質について理論的理解をする。 ・動物性食品：卵類、甲殻類と乳製品の性質と活用について理論的理解をする。 【知識及び技能】 食品の分類とその特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 食品に関する課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 植物性食品・動物性食品の特徴と性質を理解している。 【思考・判断・表現】 ワークシートに、植物性食品・動物性食品についてまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークによる相互評価（判別実習がきちんとできている）	○	○	○	13
2 学 期	定期考査			○	○		1
	食品の特徴と性質 ・植物性食品：野菜類について理論的理解をする。 ・動物性食品：畜肉類について理論的理解をする。 【知識及び技能】 食品の分類とその特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 食品に関する課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 植物性食品・動物性食品の特徴と性質を理解している。 【思考・判断・表現】 ワークシートに、植物性食品・動物性食品についてまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークによる相互評価（判別実習がきちんとできている）	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	食品の特徴と性質 ・植物性食品：果実類について理論的理解をする。 ・動物性食品：乳類について理論的理解をする。 【知識及び技能】 食品の分類とその特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 食品に関する課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 植物性食品・動物性食品の特徴と性質を理解している。 【思考・判断・表現】 ワークシートに、植物性食品・動物性食品についてまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークによる相互評価（判別実習がきちんとできている）	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

3 学 期	食品の特徴と性質 加工品やし好品、その他の食品、食品の加工と貯蔵 【知識及び技能】 食品の分類とその特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 食品に関する課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 加工品などその他食品の特徴と性質や食品にあった加工方法・貯蔵方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ワークシートに、植物性食品・動物性食品についてまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークによる相互評価（判別実習がきちんとできている）	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
							合計 70

三宅 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 家庭		科目 保育基礎	
教 科： 家庭	科 目： 保育基礎	単位数： 2	単 位
対象学年組：第 3 学年 家政科			
教科担当者： 手塚博生			
使用教科書：（ 保育基礎 （教育図書） ）			
教科 家庭	の目標：		

【知 識 及 び 技 能】	人間の将来にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 保育基礎	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。
【学びに向かう力、人間性等】	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	1 章 子どもの保育 ○保育の意義と重要性について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を取り上げながら扱い、保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。 ○保育者にはどのような資質が求められるか、またそれを身につけるにはどのようなしたらよいかなど、保育者観についての考察を深める。 ○家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場（幼稚園や保育所、認定こども園など）の保育環境の特徴や役割を理解する。 ○子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し、子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察する。	1 章 子どもの保育 1 節 保育の意義 1 保育とは 2 保育の意義 2 節 保育の方法 1 保育者の役割とは 2 一人ひとりに合わせた指導 3 節 保育の環境 1 家庭での保育 2 幼児教育・保育の場 3 子どもが育つ環境の変化と課題	【知識・技能】 ○保育者の役割を理解し、その資質や能力を身につけるにはどのような点に気をつけていけばよいかなど、考察ができる。 発達時期の特性を考慮した保育の工夫が必要であることを理解している。 ○胎児の生育環境である母体に対する関心と課題意識を高めている。乳幼児の身体的特徴と生理的特徴及びその変化に関する知識を身につけている。 ○子どもの心の発達の特徴と発達の経過について理解している。 ○人間関係の発達については乳児期の愛着の発達が重要であり、安全基地を土台として人間関係が広がっていくことを理解している。 【思考・判断・表現】 ○子どもを取り巻く環境が子どもの発達に大きな影響を与えることを理解し、発達段階における発達課題に応じて、接し方・援助の仕方・適切な保育環境整備について述べている。 ○それぞれの月齢・年齢ごとの身体的・生理的特徴に関心を持ち、保育に関連づけて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。	○	○	○	12
	2 章 子どもの発達 ○乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個性といった特性があることを理解する。 ○乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。 ○心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。 ○知的発達、言葉の発達、社会性・情緒など様々な側面から、子どもの心の発達をとらえる。 ○誕生～乳児期・幼児期の発達の過程を、それぞれの月齢・年齢ごとの発達に沿った子どもの姿を通して理解する。	2 章 子どもの発達 1 節 子どもの発達の特性 1 発達と保育 2 発達の共通性と個性 2 節 子どものかからだの発達 1 発育・発達の評価 2 身体的特徴 3 生理的特徴 3 節 子どもの心の発達 1 社会・情緒的な発達 2 知的発達 3 言葉の発達 特集 月齢、年齢別の発育・発達	【知識・技能】 ○子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える保育の基礎的な技術を身につけている。 ○子どもの健康状態を見とときのポイントや病気の特徴、予防接種について理解している。 ○遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて理解している。 ○子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊具等の作成に取り組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 ○子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法について思考を深めている。 ○子どもにおこりやすい事故を予測し、その対策を考えることができる。 ○子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
2 学 期	3 章 子どもの生活 ○子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。 ○乳幼児期の栄養や食事（乳汁栄養や離乳食、幼児食など）の特徴を実習を通して理解しする。 ○子どもの衣生活と育児用品について、身体特徴をふまえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。 ○基本的生活習慣と社会的生活習慣の意義と重要性を理解し、子どもの発達に即した適切な生活習慣とその援助について考察する。 ○子どもの健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解する。 ○子どもの事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例とあわせて理解する。	3 章 子どもの生活 1 節 子どもの生活と養護 1 生活と健康 2 栄養と食事 3 衣生活 2 節 生活習慣の形成 1 子どもの生活習慣 2 基本的生活習慣 3 社会的生活習慣 3 節 健康管理と事故防止 1 子どもの健康管理 2 事故の防止と応急処置	【知識・技能】 ○子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える保育の基礎的な技術を身につけている。 ○子どもの健康状態を見とときのポイントや病気の特徴、予防接種について理解している。 ○遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて理解している。 ○子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊具等の作成に取り組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 ○子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法について思考を深めている。 ○子どもにおこりやすい事故を予測し、その対策を考えることができる。 ○子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。	○	○	○	14

3 学 期	4章 子どもの文化 ○絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解する。 ○子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。 ○遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにする。	4章 子どもの文化 1節 子どもの文化の意義と支える場 1 子どもの文化 2 子どもの文化を支える場 2節 子どもの遊びと表現活動 1 遊びと発達 2 遊びと表現活動	○子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。 ○子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	4章 子どもの文化 ○子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。 ○遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにする	2節 子どもの遊びと表現活動 1 遊びと発達 2 遊びと表現活動	【知識・技能】。 ○子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊具等の作成に取り組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。 ・子ども観の変遷や、権利の主体として尊重されつつある状況を理解している。 【思考・判断・表現】 ○子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法について思考を深めている。 ○子どもにおこりやすい事故を予測し、その対策を考えることができる。 ○子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考察することができる。 ○児童福祉の基本的な考え方について理解し、子どもの幸福について自分の意見や考えをまとめることができる。 ○児童虐待の現状と対策について自分の考えを述べている。 ○子育ての現状をふまえて、これからの子育て支援を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。 ○子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている	○	○	○	10
	5章 子どもの福祉 ○子ども観は国や地域、時代によって変化していることを理解する。 ○時代の変化と共に子どもが権利の主体として尊重する考え方が世界で共有されつつあることを理解する。 ○子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解する。 ○児童憲章や児童の権利に関する条約を通して児童福祉の基本的な考え方を理解し、子どもの幸せとは何かを考える。 ○子どもを地域や社会で支える子育て支援の具体的な場や制度について理解する。また、子育て支援の今後の課題と展望について考察する。	5章 子どもの福祉 1節 子ども観 1 子ども観の変遷 2 権利の主体としての子どもへ 2節 子どもの福祉 1 児童福祉 2 子どもをとりまく課題と対策 3 子どもが育つ社会環境 3節 子育て支援 1 子育て支援からパートナーシップへ 2 社会的養護 3 地域の子育て支援	○児童福祉の基本的な考え方について理解し、子どもの幸福について自分の意見や考えをまとめることができる。 ○児童虐待の現状と対策について自分の考えを述べている。 ○子育ての現状をふまえて、これからの子育て支援を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。 ○子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている	○	○	○	11
	定期考査			○	○		
							合計 70

年間授業計画

三宅 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 家庭 科目 フードデザイン

教 科： 家庭 科 目： フードデザイン 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 家政科

教科担当者：手塚博生

使用教科書：（ フードデザイン （教育図書） ）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】

人間の生涯にわたる発達と食生活の営みを総合的に捉え、「食」の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、食生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における食生活の中から問題や課題を見いだして解決策を考え、考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して食生活の問題や課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたり健康に生活するための食生活の構築に向けて、地域社会ともかわかり、自分や家庭、地域の食文化も学び、食を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 フードデザイン の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。	人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他と協働して取り組むことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 食生活と健康 ・食事の基本的な意義を理解させる。 ・家族、友人等集団での食事を共にすることの意義など、食事に関わる利点を再確認させる。 ・現代の食に関する問題点を把握させる。 ・健康維持のために食事がどのように大切かを理解させる。 ・各国の食料自給率を通して、日本における食料生産の問題点を考えさせる。 ・市場にあふれる食材の背景にあるものに気づき、食料の価値を考える。 ・地球環境の保全、生物連鎖と食生活との関わりについて理解し、環境保全、資源の有効活用の意識を高め、日常生活行為を見直させる。	第1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 1項 からだをつくる食事 2項 食生活を豊かにする食事 2節 食をとりまく現状 1項 栄養摂取の変化と現状 2項 生活習慣病と欠食 3項 ライフスタイルの変化 4項 食料自給率と食品ロス 5項 食品の安全性と環境の変化	【知識・技能】 ・食事は、栄養を供給し、生命の維持や健康の保持増進を図ると同時に、精神的な役割や文化的な役割を果たしていることが理解できる。 ・日本の食生活の現状の問題が理解できる。 ・現代の食生活の現状について、情報を収集・整理し、考えをまとめることができる。 ・五大栄養素などの種類とはたらきについての知識を習得することができる。消化・吸収について理解している。 ・食品ごとのアミノ酸スコアを計算することができる。 ・基礎的な調理題材について、計画し、つくることができる。 【思考・判断・表現】 ・心身ともに健康で豊かな食生活を営むための食事のあり方について思考を深め、自分の食生活の現状を判断することができる。 ・からだの中でそれぞれの栄養素がどのようなはたらきをしているのかを考えることができる ・作成した献立に適した食品を選択する事ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分自身の食生活や日本の食生活の現状に関心を持ち、改善しようとする意欲が感じられる。 ・炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルなどの種類とはたらき、栄養素の消化のしくみに関心を持とうとしている。 ・機能的成分にはどのようなものがあるか知ろうとしている。	○	○	○	12
	第2章 栄養素の働きと食事計画 ・人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを把握させる。 ・各種栄養素の特徴と体内ではたらき、代謝について理解させる。 ・アミノ酸評価パターン、アミノ酸スコアについて理解させる。	第2章 栄養素の働きと食事計画 1節 栄養素のはたらき 1項 食物の摂取と栄養 2項 炭水化物 3項 脂質 4項 たんぱく質 5項 ミネラル 6項 ビタミン 7項 その他の食品成分 8項 エネルギー	【知識・技能】 ・からだの中でそれぞれの栄養素がどのようなはたらきをしているのかを考えることができる ・作成した献立に適した食品を選択する事ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分自身の食生活や日本の食生活の現状に関心を持ち、改善しようとする意欲が感じられる。 ・炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルなどの種類とはたらき、栄養素の消化のしくみに関心を持とうとしている。 ・機能的成分にはどのようなものがあるか知ろうとしている。	○	○	○	12
	第6章 フードデザイン実習 ・調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかせる。 ・基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。	第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 1項 日常食の献立作成条件 2項 日常食の献立作成の手順	【知識・技能】 ・乳幼児期から高齢期までの各ライフステージごとの栄養の特徴、食生活上の留意事項について理解できる。 ・調理を前提として、よりよい食品を見きわめ、購入することができる。 ・食品を衛生的に取り扱うことができる。 ・食品の生産・流通・加工などの現状が理解できる。 ・食品の衛生と安全に関する基本的な知識を身につけている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		
	第2章 栄養素の働きと食事計画 ・各自及び家族の生活について、健康増進のための食生活の視点から考えさせる。 ・栄養に偏りのある食事内容について改善計画を考えさせ、食生活を向上させる。 ・各ライフステージごとの栄養上の注意点を把握させる。	第2章 栄養素の働きと食事計画 2節 ライフステージと栄養 1項 乳幼児期の栄養 2項 青少年期の栄養 3項 成人期の栄養 4項 高齢期の栄養 3節 食事摂取基準と食事計画 1項 日本人の食事摂取基準 2項 食事計画	【知識・技能】 ・乳幼児期から高齢期までの各ライフステージごとの栄養の特徴、食生活上の留意事項について理解できる。 ・調理を前提として、よりよい食品を見きわめ、購入することができる。 ・食品を衛生的に取り扱うことができる。 ・食品の生産・流通・加工などの現状が理解できる。 ・食品の衛生と安全に関する基本的な知識を身につけている。	○	○	○	12

2 学期	4章 調理の基本 ・何のために調理するのかを理解させる。 ・おいしさにかかわる条件を知り、調理にいかせるようにする。 ・だし、味覚効果、料理の触感や温度、素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解し、調理にいかせる。 ・計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具ごとの特徴などについて、具体的な知識と技術を身につけさせる。 ・調味に関する基本的な知識を習得させる。	4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 1項 調理の目的 2項 食べ物のおいしさ 2節 調理操作 1項 非加熱操作 2項 加熱操作 3項 加熱調理器具 3節 調味操作 1項 調味の目的 2項 調味をする段階	・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について知識を習得することができる 【思考・判断・表現】 ・各ライフステージに応じた望ましい食生活を判断することができる。 食品について安全や衛生に配慮した適切な判断ができる。 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている。 ・食品の特性を図表などから科学的に考察できる。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化を実験を通して観察し、考察することができる。	○	○	○	12
	第3章 食品の特徴・表示 ・様々な食品について、それぞれの特徴を把握させる。 ・これらの食品について、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理にいかせる。	第3章 食品の特徴・表示 1節 食品の特徴と性質 1項 穀類 2項 いも類 3項 砂糖 4項 豆類 5項 種実類 6項 野菜類	【主体的に学習に取り組む態度】 ・調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康などの面から関心を持ち、学ぼうとする意欲が感じられる。 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		
3 学期	第3章 食品の特徴・表示 ・穀類、砂糖、大豆・豆製品、野菜、果物、海藻類、魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、油脂、調味料、香辛料等様々な食品について、それぞれの特徴を把握させる。 ・これらの食品について、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理にいかせる。 ・加工食品の加工方法や種類について理解させる。 ・特定保健食品などについて把握させる。	第3章 食品の特徴・表示 1節 食品の特徴と性質 7項 くだもの類 8項 きのご類 9項 海藻類 10項 魚介類 11項 肉類 12項 卵類 13項 牛乳・乳製品 14項 油脂類 15項 かんてん・ゼラチン 16項 し好食品 17項 調味料・香辛料 18項 加工食品と加工方法 19項 特別用途食品と保健機能食品	【知識・技能】 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を習得することができる。 ・具体的な食事テーマの設定、目的に応じた献立作成、献立に適した食品の選択、食品の調理性を踏まえた適切な調理について、理解できる。 【思考・判断・表現】 ・食品の特性を図表などから科学的に考察できる。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化を実験を通して観察し、考察することができる。 ・具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 ・作成した献立に適した食品を選択することができる。	○	○	○	5
	第6章 フードデザイン実習 ・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。 ・これまで身につけた知識を調理にいかし、手際よくつくることができるようにする。 ・基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。	第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 1項 日常食の献立作成条件 2項 日常食の献立作成の手順 3項 応急食・行事食 3項 テーマ設定と調理実習	【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている。 ・食事のテーマにふさわしい献立を行おうとする意欲・関心が感じられる。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		
							合計
							70